

語り継がれる歴史・伝説



白鷺の伝説

「伝云、古此湯少し湧出したり、鷺の足かたはなるが、常々来りて足を浸す、幾程となく平癒したり、故に此所を鷺谷と云」郷土地誌「予陽郡郷俚諺集」には、道後温泉は白鷺により発見せられ、人々がその靈験を知って入浴するようになったと伝わります。



熟田津の歌

「熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今はこぎいでな」は青明天皇平る船団が出港するにあたり、額田王が作った歌といわれています。



玉の石

伊予国風土記逸文には、大國生命が重病の少彦名命を掌にのせて道後の湯であたためたところ、たちまち元気になり石の上で踊ったと記されています。



一遍上人と湯釜

道後の宝蔵寺に生まれた時宗の開祖である一遍上人は、正応1年(1288)、河野道有の依頼で、湯釜の宝珠に「南無阿弥陀仏」の六字の名号を書いたと伝えられています。



聖徳太子と湯の岡の碑文

法興6年(596)、道後に訪れた聖徳太子は明媚な風光と良質の温泉を推賞せられ、湯の岡に温泉の碑を建立されたと伝わります。

道後温泉本館 館内図

道後温泉本館は

- 1階が神の湯と霊の湯の2種類の浴場、
 - 2階が皇室専用浴室の又新殿と大広間の休憩室、
 - 3階は個室の休憩室と貸切室になっています。
- それぞれを組み合わせた6つの入浴コースがあります。

振鷺閣と刻太鼓は

「残したい日本の音風景100選」に選ばれています。

太鼓は、時刻を告げる刻太鼓として、朝6時に6回、正午に12回、夕方6時に6回の1日3度打ち鳴らされ、温泉情緒を醸し出しています。



詳しい情報は
道後温泉公式サイトへ
【公式サイト】道後温泉
<https://dogo.jp>

